

令和2年度 校内研究について

「主体的・対話的に学び合い、自己を見つめる子の育成」

～生徒指導の三機能を意識した指導を通じて～



明石市立江井島小学校

1. 本校のこれまでの研究について

本校は平成28年度（2016年度）からよりよい食生活や自分自身の在り方、他の人とのつながりを考え、心も体も健康に過ごそうという児童を育むことを目指して食育の研究を始めました。平成29年度（2017年度）には「地域の特色を生かした食育推進事業」の指定を受け、研究発表会を行いました。「教科・領域と食育とを一体的に学ぶ研究」においては、教科・領域で得た知識を用いて食に関する課題を主体的・協働的に解決していこうとする児童の生き活きた姿が見られ、学習内容に発展的な広がりや深まりが生まれています。このことから、「食」という全ての児童が親しみやすいテーマを取り入れたことで、多くの児童が主体的・協働的に学習に参加でき、結果として教科・領域の目標を達成できることがわかりました。平成30年度（2018年度）は国語科を中心に「主体的・対話的に深く学び、自己を見つめる子ども～ことばを大切にし、伝え合い、鍛え合う授業づくり～」をテーマにし、「動きのある話し合い活動」と「認め合い高め合う学習集団作り」に重点をおいて研究を進めてきました。児童の学習意識を調べるアンケートでは「友だちと自分の考えを比べながら話し合うことが楽しい。」と答えた児童が増えた一方で「間違えるのが恥ずかしい。苦手なことはすぐにあきらめてしまう。」と答えた児童が一定数おり、本校児童の持つ「自信が持てず、困難なことに挑戦しにくい。」という課題が見えてきました。

2. 本年度の研究テーマ設定の理由と指導における具体的な取り組みについて

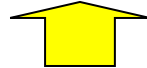
本校は令和元年度（2019年度）から明石市教育委員会の研究指定を受けて生徒指導の研究を行っています。生徒指導と聞くと厳しい、怖いといったマイナスのイメージを抱く方もいらっしゃるかもしれませんが、学習指導要領で「生徒指導は全ての児童のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活が全ての児童にとって有意義で興味深く、充実したものになるようにすることを目指すものである。」(1)「生徒指導は学習指導と並んで重要な意義を持つものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の児童の健全な成長を促し、児童自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、学習指導と関連付けながら、その一層の充実を図っていくことが必要である。」(2)と規定されています。本校では令和2年度（2020年度）の研究テーマを「**主体的・対話的に学び合い、自己を見つめる子の育成～生徒指導の三機能を意識した指導を通じて～**」と決めました。この研究では、主体的・対話的な児童同士のかかわりを大切にしながら、生徒指導の三機能である「自己決定の場を与えること」「自己存在感を与えること」「共感的人間関係を育成すること」を意識した教育活動を展開し、最終的には学校教育目標でもある「自ら学び、心豊かで、主体的に行動できる児童の育成」を目指します。研究を進めることによって、自信が持てず、困難なことに挑戦しにくい児童が、自分で考え、決めて実行できる子、友だちと進んで関わり合い、自分の思いを意欲的に表現できる子、困難な課題にぶつかっても挑戦し続け、すぐにあきらめない子に成長することを願っています。指導における具体的な手立ての一例としては、「児童が興味関心を持ち、進んで取り組みたくなるような教材や授業展開を工夫すること」、「一人一人の児童の気持ちに寄り添いながら発表や活躍のチャンスを与えること」、「それぞれの児童の良さや違いを認め合う活動を取り入れること」などが挙げられます。このような生徒指導の三機能を意識した指導を教育活動全体に取り入れ、全教職員で取り組むことで児童を集団や社会の一員としても、さらによりよい方向に成長させていきたいと考えています。

<参考文献> (1) (2) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 P99

3. 今年度の研究テーマについて

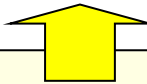
学校経営目標

「ふるさと江井島に誇りを持ち、自ら学び、心豊かで、主体的に行動できる児童の育成 ～やさしく・かしこく・たくましく～」



研究主題

「主体的・対話的に学び合い、自己を見つめる子の育成」
～生徒指導の三機能を意識した指導を通じて～



目指す子ども像

- 自分で考え、決めて実行できる子
- 友だちと進んで関わり合い、自分の思いを意欲的に表現する子
- 困難な課題にぶつかっても挑戦し続け、すぐにあきらめない子

学習指導

育成すべき資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 学びに向かう力・人間性等

<主体的・対話的で深い学びの実現>

主体的な学びを促す

対話的な学びを促す

深い学びを促す

生徒指導

自己指導能力

- 現在および将来において、よりよい生き方をし、社会の担い手へと成長するための自己実現を図っていく力

<生徒指導の三機能を生かす指導>

自己決定の場を与える

共感的人間関係を育成する

自己存在感を与える

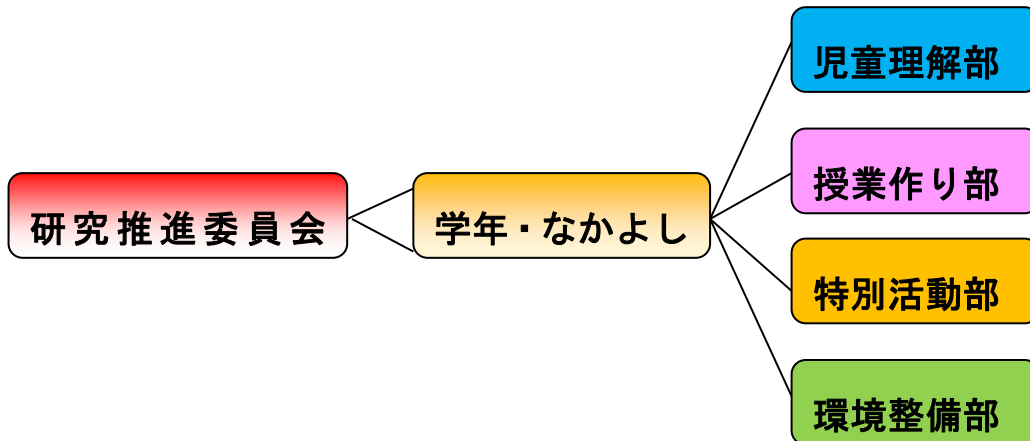
一体化

- 委員会活動 ○クラブ活動 ○給食 ○清掃 ○学校行事
- 特別支援教育 ○人権教育 ○キャリア教育
- コミュニティスクール ○家庭・地域との連携 など

<組織で支える校内体制>

4. 研究組織について

全教職員が4つの研究部会に分かれて研究を推進していきます。以下はそれぞれの研究部会が担当する主な活動内容です。



児童理解部

- ・ 生徒指導の三機能を意識した指導により児童がどう変わったかを把握するためにアンケート等を実施する。
- ・ 生徒指導に関する基本的な方針を提案する。

授業作り部

- ・ 学習指導案の提案をする。
- ・ 授業における有効な手立てや、基本的な方針を提案する。

特別活動部

- ・ 特別活動に関する指導計画の追加、修正、変更を行う。
- ・ 掃除、委員会の活性化に向けて具体的な取り組み検討し、各委員会担当者と連携して校内全体で共通理解できるようにする。

環境整備部

- ・ 生徒指導の研究に関する掲示物のルールや内容を提案する。
- ・ 生徒指導の研究に関する掲示物を制作・展示する。
- ・ 学校の掲示板の内容を記録し、データ保存する。

5. 令和元年度 公開授業の様子

1年生

2020年2月26日
『めざせ！ひなん名人』

きけんを見つけよう



イラストの中から危険なところを見つけ、丸を付ける活動
(自己決定の場を与える)



ぼうさいダックを使って、身を守る行動を練習する活動
(自己決定の場を与える)



自分の見つけた危険をグループで紹介しあう活動
(自己存在感を与える)
(共感的人間関係を育成する)



見つけた危険をクラス全員の前に出て発表する活動
(自己存在感を与える)

3年生

2019年11月14日
『豆電球に明かりをつけよう—私のおもちゃ作り—』
「電気で明かりをつけよう」

ズバリ!電気を通すものは()だ



ペアータークで考えを交流する活動
(自己存在感を与える)



授業の振り返りを書く活動
(自己存在感を与える)



友達の意見を聞き、新しい自分の考えを作っていく活動
(共感的人間関係を育成する)



6年生

2020年1月30日
『チームでつなぐバスケットボール!』
ボール運動：ゴール型 バスケットボール

チームの作戦をいかしてゴールをねらおう



曲に合わせて、技能練習をする様子
(自己決定の場を与える)



チームでの作戦会議の様子
(共感的人間関係を育成する)



作戦に合わせたチーム練習
(自己存在感を与える)
(共感的人間関係を育成する)



試合に出ない児童もアドバイスを送る
いいプレーを試合中に褒める
(自己存在感を与える)
(共感的人間関係を育成する)

2年生

2019年11月28日
『すてきな一日を知らせよう』
「どうぶつ園のじゅうい」

一日で一番大切な仕事は何なのかを考えよう。



考えたことをノートに書く活動
(自己決定の場を与える)

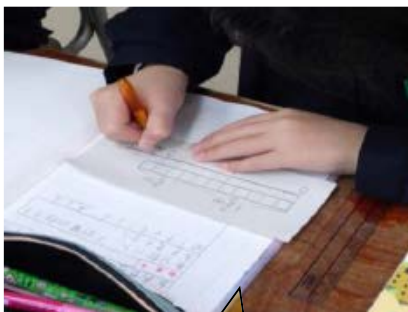


ペアトークで意見交流をする
活動 (自己存在感を与える)
(共感的人間関係を育成する)

4年生

2020年1月28日
『分数マスターになろう』「分数」

帯分数の入った計算の仕方を考えよう



数直線図やテープを選択し課題
に取り組む活動
(自己決定の場
を与える)



自力解決が終わった
後も友達と考えを
伝え合う様子
(自己存在感を
与える)

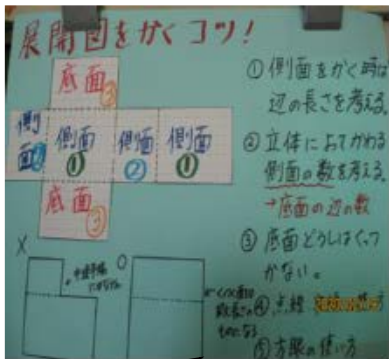


クラス全員がわかるという
ことを目標とし友だち
に助言をしたり、互いの
考えを確かめ合ったり
する活動(自己存在感を
与える)(共感的人間関係を
育成する)

5年生

2020年2月19日
『いろいろな展開図を考えよう』
「角柱と円柱」

三角柱の展開図をかき、自分で組み立てよう



自力解決のきっかけとなる
掲示物
(自己決定の場を与える)

児童同士で考えの共有
をする活動(自己存在感
を与える)(共感的人間関
係を育成する)

授業の最後に自力
で完成した展開図
(自己存在感を与える)

なかよし

2019年12月17日

『チャレンジしたいしごとをみつけ、しごとのすごい!をつたえよう』

しごとのすごい!をつたえよう



自分の伝えたい仕事を自
分できめること(自己決
定の場を与える)

仕事について一生懸
命発表できたこと(自
己存在感を与える)

友だちのがんばりを認
めること(共感的人間関
係を育成する)